

公益社団法人 私立大学情報教育協会
サイバー・キャンパス・コンソーシアム
平成24年度 第4回統計学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時 平成24年10月4日(木) 14:00~16:00
場所 私立大学情報教育協会事務局

II. 出席者 中西委員、渡辺委員、今泉アドバイザー、高橋アドバイザー
(事務局 井端、森下、平田)

III. 検討事項

前回作成した学士力の背景と到達目標の解説の見直しを行った他、モデルに挿入する図を確認した。

1. 統計学の学士力の背景について

「統計を安心・安全に活用できるようにするためには、統計の特性としての信頼性の確保が基本である。そのためには、妥当性、客観性を有する科学的手法が担保されなければならない。」は、教育の部分に入れるべきと判断し、「個人と社会における統計の役割を理解し、・・・活用できる知識と技能を修得させる必要がある。」の後に移動し、文末「科学的手法が担保されなければならない」を「科学的思考力を育まなければならない」に修正した。

2. 学士力の到達目標の解説について

(1) 到達目標1については、冒頭に「身の周りの統計情報を適切に読み解くために、」を追加した。

(2) 到達目標3については、冒頭の「標本の結果がなぜ母集団に一般化できるか、一般化できるための標本の取り方はどうあるべきかを理解させなければならない。」を具体的に示すために「標本の重要性を理解させるために、標本に基づく分析結果から母集団の特徴を推測できなければならない。」に修正した。

(3) 到達目標4については、最後「データの背後に隠れた要因の存在を理解させることが重要である。」は他と表現を統一するため、「データの背後に隠れた要因の存在を説明できることを目指す。」に修正した。

(4) 到達目標5については、他と表現を統一するため、冒頭の「リアルなデータに基づいて」を削除し、その後の必要な能力を「各専門分野における課題発見および問題解決を行うために、実際のデータに対して統計的思考や技能を用いて具体的な分析ができなければならない。」に修正し、後半部分の具体的な能力の提示は「そのために、因果の関係を統計的モデルとして表現し、その妥当性について検証を行い、分析結果を可視化して、他のモデルと比較説明できることを目指す。」に修正した。

3. モデルに挿入する図について

モデル1「2.2 授業の仕組み」の「専門科目と統計の統合授業」のイメージ図は、他分野で作成されたものを参考にして、新たに作成した。また、モデル2「3. 改善モデルの授業の点検・評価・改善」の「評価シート」は掲載しないことにし、モデル1の「2.4 授業にICTを活用した学修内容・方法」

の「統計活用事例のアーカイブ」のイメージ図を挿入することに、担当委員が後日、作成することを確認した。

4. 今後のスケジュール

以降は委員会は開催せず、「統計活用事例のアーカイブ」のイメージ図を作成し、学士力やモデルを各委員で見直しを行い、気づいた点はメールで意見交換することで完成させることを確認した。